



2020 年 7 月 31 日

P R E S S R E L E A S E

創造性をいかに育むか

「Fuso Future Solutions Lab」イベントを開催

三菱ふそうトラック・バス株式会社(本社:神奈川県川崎市、代表取締役社長・CEO ハートムット・シック、以下 MFTBC)は、独自の製品開発プラットフォームを紹介するイベント「Fuso Future Solutions Lab」を 7 月 30 日(木)に本社川崎製作所にて開催しました。

MFTBC では、通常の製品開発プロセスにくわえて、社会のニーズや課題に向けたソリューションとなり得る革新的な製品開発を目的に、社内及び社外からクリエイティブなアイデアを創出するオープンなプラットフォームを擁しています。MFTBC の開発部門を主体に、日本及び海外の大学とのワークショップやスタートアップとの連携、社外から参加者を招待したハッカソン等を開催し、これまでに 100 以上のアイデアを創出しています。また、従来の枠を超えて MFTBC 社内の様々な部署から提案されたアイデアも形にしています。

7 月 30 日に開催したイベントでは、社会的な課題解決をテーマに開発したコンセプトトラック 2 台を紹介しました。三菱ふそうの小型電気トラック「eCanter」をベースにした塵芥車のコンセプトモデル「eCanter SensorCollect」は、排出ガスゼロの電気トラックを利用することで、社会に不可欠なサービスであるゴミ収集作業の効率化とクリーン化を提案しています。この車両において、オペレーターはワイヤレス式 HMI(Human Machine Interface)を通じて遠隔で操作出来ます。同車両は LiDAR や超音波式センサー、高精度 GPS を搭載することで車両付近に安全区域を形成し、車両への追従や一時停止、障害物の回避、ならびに安全区域に人が侵入した際の緊急停止といった遠隔での操作が可能です。これらの機能はゴミ収集員の作業効率を促進し、機能がさらに進化した場合には、より少ない人員で安全なゴミ収集作業を行える可能性もあります。

同じく本イベントで紹介した「Canter ATHENA」は、三菱ふそうの小型トラック「Canter」の四輪駆動車をベースに、実際に救急救助を担う国土舘大学の防災・救急救助総合研究所と共同開発した災害用レスキュー車両の試作車です。第 46 回東京モーターショー2019 にも参考出品車として展示し、救助および緊急サービスの具体的なニーズに対応した車両となっています。同車両は今後、国土舘大学の防災・救急救助総合研究所において、実際の災害対応に利用される計画があります。

「イノベーション創出は MFTBC における研究開発の大きな強みとなる柱であり、長期的に市場形

三菱ふそうトラック・バス株式会社

神奈川県川崎市中原区大倉町 10 番地 〒211-8522 Tel 044-330-7701 Fax 044-331-6888

mitsubishi FUSO TRUCK & BUS CORPORATION

10 Ohkura-cho, Nakahara-ku, Kawasaki-shi, Kanagawa 211-8522, Japan Corporate Communications/Tel +81-44-330-7701 Fax +81-44-331-6888

成を左右するものです。私たちはお客様や社会におけるニーズに対応した革新的な製品開発にこれからも取り組み続けます。」(副社長兼開発本部長アイドガン・チャクマズ)



塵芥車仕様のコンセプトモデル「eCanter SensorCollect」



災害用レスキュー仕様のコンセプトトラック「Canter ATHENA」

三菱ふそうトラック・バス株式会社

神奈川県川崎市中原区大倉町 10 番地 〒211-8522 Tel 044-330-7701 Fax 044-331-6888

MITSUBISHI FUSO TRUCK & BUS CORPORATION

10 Ohkura-cho, Nakahara-ku, Kawasaki-shi, Kanagawa 211-8522, Japan Corporate Communications/Tel +81-44-330-7701 Fax +81-44-331-6888